

ロボットアプリケーションの開発工数を98%削減 ア-テファクツ 継続的シミュレーション・プラットフォーム「Artefacts」日本語版提供開始

アステリア株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長/CEO：平野洋一郎、証券コード：3853、以下アステリア）とAI 専門子会社のアステリア Artificial Recognition Technology 合同会社（代表：園田智也、以下アステリア ART）は、ロボットアプリケーション開発・導入のための継続的シミュレーションプラットフォーム「Artefacts」（ア-テファクツ）の日本語版^{*1}を本日より提供開始することを発表します。

■「Artefacts 日本語版」開発・提供開始の背景

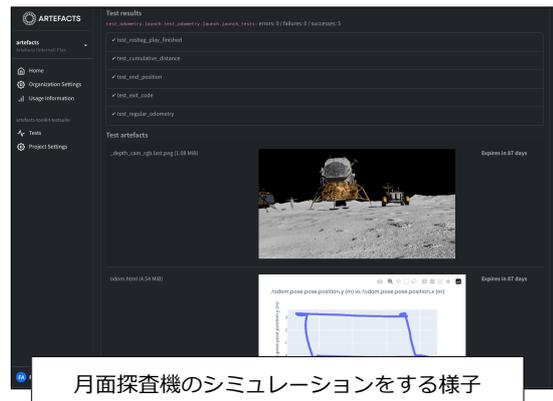
世界のロボット市場は2028年には655.9億ドルまで到達^{*2}すると予想され、飛躍的な成長が期待されています。一方で、ロボットアプリケーション開発現場では、以下のような課題を抱えており、より効率的なテストやシミュレーションを実現するツールが求められています。

<ロボットアプリケーション開発の課題>

- ・シミュレーションや調整、実機による検証プロセスが必要なため数ヶ月の期間が必要
- ・宇宙空間や大型建築物などは物理環境の用意が困難

そこでアステリア ART は、2019年から研究開発に取り組んできたAI技術をロボティクス領域に応用した「ロボットアプリケーション用継続的シミュレーションプラットフォーム」としてArtefactsを開発。本日よりアステリアより日本語版の提供を開始します。

Artefactsは、ロボットアプリケーション開発のためのバーチャル稼働環境の構築、シミュレーションやテストセットを一括管理できるプラットフォームです。導入初日からバーチャル環境での稼働テストを開始することで、ロボットそのものを含めた物理環境を準備することなく、バーチャル上のテストが可能となります。これにより、開発工数で98%以上、開発コストは50%以上の削減を実現。開発日数は今までの数ヶ月から最短1日へと短縮可能です。



■今後の展開

Artefactsは、今回の提供開始に先立ち2024年末からベータ版を提供しており、国内外の研究機関や企業の生産ライン開発チームなどから多数の引き合いを獲得している状況です。アステリアではArtefactsを国内外に展開し、2030年度には20億円の販売規模に拡大する計画です。

※1：英語版は、2025年4月1日から提供開始済み。

※2：総務省 令和6年版情報通信白書 (<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/r06.html>)

■『アステリア株式会社』について（Webサイト <https://jp.asteria.com/>）

アステリアは社会や企業を「つなぐ」エキスパートとして「ソフトウェアで世界をつなぐ」をコンセプトに、ヒト、モノ、オモイを「つなぐ」製品やサービスを提供するソフトウェア開発企業です。基幹製品のASTERIA Warpは、様々なシステムやクラウドのデータをノーコードで連携できる製品として、1万社を超える企業に導入されています。その他、デジタル収納アプリ Handbook Xは、資料や動画、Webサイトなどあらゆる情報をアプリにまとめて管理できるクラ

クラウドサービス。モバイルアプリ作成ツール Platío は誰でも簡単に自社の業務に合ったモバイルアプリをノーコードで作成・活用できるクラウドサービス。ノーコード AI/IoT プラットフォーム Gravio はノーコードで様々な場所にある多様なデータを集約、活用し情報の一元管理を可能とするノーコードコンピューティング基盤。これらの製品提供を通じて、DX や業務の効率化を推進しています。また、(一社)ブロックチェーン推進協会、ノーコード推進協会などの設立に参画するなど、様々なイノベーションを推進し新しいテクノロジーや価値観を普及啓発する活動にも取り組んでいます。

【プレスリリースに関するお問い合わせ先（報道機関窓口）】

アステリア株式会社 広報・IR部：齋藤ひとみ、小出朱莉

TEL: 03-5718-1297 / 携帯: 080-7709-5212 (齋藤) / E-mail: press@asteria.com

アステリア、ASTERIA、Handbook はアステリア株式会社の登録商標です。
その他記載されている会社名、製品名、サービス名、ロゴ等は各社の商標または登録商標です。